

ディプロマ・ポリシー（卒業認定に関する方針）

I. 専門学校静岡工科自動車大学校の建学理念である「技術者の育成をもって地域社会に貢献する」に基づき、「社会のニーズにマッチした高いレベルの専門教育と人間性の育成」の教育理念を実践することにより、社会で活躍できる以下の能力を身につけ、学科の基準を満たした者に対して卒業を認定する。

(1) 知識・理解

「自動車」や「ものづくり」に関する専門知識を習得し、それらを活用し知恵に繋げることができる。

(2) 思考・判断

「自動車」や「ものづくり」に関する課題に対しては、安全を第一に考え、論理的、創造的な思考により適切な状況判断ができる。

(3) 関心・意欲

「自動車」や「ものづくり」に関する好奇心が旺盛でかつ向上心を持ち、それらの課題には意欲的、主体的に行動することができる。

(4) 態度

社会人として規律ある行動がとれ、誠実な姿勢で、目標を定めたら諦めず最後までやり抜くことができる。

(5) 技能・表現

「自動車」や「ものづくり」に関する技術を有し、それらを実践できる。また、自分とは違う意見にも素直に耳を傾け、自分の意見を分かり易く伝えることができる。

I－1. 自動車システム工学科の卒業認定に関する方針

学校で定めた卒業認定の要件を受けて、自動車システム工学科が示す以下の知識及び能力を有する者に対して卒業を認定する。

(1) 知識・理解

国家一級自動車整備士として必要な自動車システムに関する専門知識を習得し、それらを自動車の点検、整備、総合診断などのプロセスに活用することができる。

(2) 思考・判断

自動車システム全般において、環境及び安全に配慮し、論理的及び創造的な思考により、正しいプロセスで診断ができる。また、顧客対応を意識した思考、判断をすることができる。

(3) 関心・意欲

自動車テクノロジーの進歩と社会ニーズの変化に常に関心を持ち、新しい知識・技術の習得にチャレンジするなど、向上心を持って意欲的、主体的に行動することができる。

(4) 態度

国家一級自動車整備士としての高い倫理観や責任感を持ち、コンプライアンスを順守することができる。また、組織活動においては、協調性ある態度で、状況に応じリーダーシップを発揮することができる。

(5) 技能・表現

国家一級自動車整備士として必要な自動車システムに関する整備技術（点検・整備・総合診断）を有し、それらを安全かつ正しいプロセスで実践できる。また、顧客対応だけではなく、自動車システムの総合診断などに必要なコミュニケーション能力（問診、説明）を身につけている。

I－2. 自動車整備科の卒業認定に関する方針

学校で定めた卒業認定の要件を受けて、自動車整備科が示す以下の知識及び能力を有する者に対して卒業を認定する。

(1) 知識・理解

国家二級自動車整備士として必要な自動車の基本性能（走る・曲がる・止まる）に関する専門知識を習得し、それらを自動車の点検、整備、故障診断などに活用することができる。

(2) 思考・判断

自動車の基本性能を踏まえ、安全に配慮し、論理的な思考により適切な判断ができる。

(3) 関心・意欲

自動車テクノロジーの進歩と社会ニーズの変化に常に関心を持ち、新しい知識・技術の習得にチャレンジするなど、向上心を持って意欲的、主体的に行動することができる。

(4) 態度

国家二級自動車整備士としての倫理観や責任感を持ち、社会人として規律ある行動がとれる。また組織活動においては、誠実で協調性のある行動がとれる。

(5) 技能・表現

国家二級自動車整備士として必要な自動車整備技術（点検・整備・故障診断）を有し、それらを安全に実践できる。また、組織や顧客対応に必要なコミュニケーション能力を身につけている。

I－3. 国際オートメカニック科の卒業認定に関する方針

学校で定めた卒業認定の要件を受けて、国際オートメカニック科が示す以下の知識及び能力を有する者に対して卒業を認定する。

(1) 知識・理解

国家二級自動車整備士として必要な自動車の基本性能（走る・曲がる・止まる）に関する専門知識を習得し、それらを自動車の点検、整備、故障診断などに活用することができる。また、日本語に関しては、日本語能力検定N2同等以上の能力（語彙、読解）を有し

ている。

(2) 思考・判断

自動車の基本性能を踏まえ、安全に配慮し、論理的な思考により適切な判断ができる。また、日本の社会慣習などを踏まえた思考、判断ができる。

(3) 関心・意欲

自動車テクノロジーの進歩と社会ニーズの変化に常に関心を持ち、新しい知識・技術の習得にチャレンジするなど、向上心を持って意欲的、主体的に行動することができる。

(4) 態度

国家二級自動車整備士としての倫理観や責任感を持ち、社会人として規律ある行動がとれる。また、組織活動においては、誠実で協調性のある行動がとれる。

(5) 技能・表現

国家二級自動車整備士として必要な自動車整備技術（点検・整備・故障診断）を有し、それらを安全に実践できる。また組織や顧客対応に必要な日本語によるコミュニケーション能力を身につけている。

I－4. ボディエンジニア専攻科の卒業認定に関する方針

学校で定めた卒業認定の要件を受けて、ボディエンジニア専攻科が示す以下の知識及び能力を有する者に対して卒業を認定する。

(1) 知識・理解

自動車の基本性能（走る・曲がる・止まる）に関する専門知識に加え、車体整備に関する専門知識を習得し、それらを自動車の点検・整備・故障診断などの他、車体整備などに活用することができる。

(2) 思考・判断

自動車の基本性能を踏まえ、環境と安全に配慮し、論理的な思考により適切な判断ができる。また、安全に配慮し、PDCAサイクルのプロセスに沿った効率の良い適切な状況判断ができる。

(3) 関心・意欲

自動車テクノロジーの進歩や車体整備に関する技術など、社会ニーズの変化に常に関心を持ち、新しい知識・技術の習得には向上心を持って意欲的、主体的に行動することができる。

(4) 態度

自動車整備、車体整備ができる総合整備士として、倫理観や責任感を持ち、社会人として規律ある行動がとれる。また、組織活動においては、チームワークを意識した誠実で協調性のある行動がとれる。

(5) 技能・表現

車体整備士として必要な「ものづくり」に関する技術及び自動車整備士として必要な自動車整備技術（点検・整備・故障診断）を有し、それらを安全に実践できる。

また、組織や顧客対応に必要なコミュニケーション能力を身につけている。

I – 5. 開発エンジニア専攻科の卒業認定に関する方針

学校で定めた卒業認定の要件を受けて、開発エンジニア専攻科が示す以下の知識及び能力を有する者に対して卒業を認定する。

(1) 知識・理解

自動車の基本性能（走る・曲がる・止まる）に関する専門知識に加え、「ものづくり」に関する基本プロセス（設計・製作・検証）を習得し、それらを自動車の点検・整備・故障診断などの他、自動車の設計・開発などに活用することができる。

(2) 思考・判断

自動車工学や機械工学の知識を活用した論理的、創造的な思考ができる。

また、安全に配慮し、PDCAサイクルのプロセスに沿った効率の良い適切な状況判断ができる。

(3) 関心・意欲

自動車テクノロジーの進歩と社会ニーズの変化に常に関心を持ち、新しい知識・技術の習得にチャレンジするなど、向上心を持って意欲的、主体的に行動することができる。

(4) 態度

自動車エンジニアとしての高い倫理観や責任感を持ち、社会人として規律ある行動がとれる。また、組織活動においては、チームワークを意識した誠実で協調性のある行動がとれる。

(5) 技能・表現

自動車エンジニアとして必要な「ものづくり」に関する技術（設計・製作・検証）及び自動車整備技術（点検・整備・総合診断）を有し、それらを安全かつ効率よく実践できる。また、組織や顧客対応に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を身につけている。